

## 2024年度 一般選抜入学試験(昨年度実施)の出題方針と学習のポイント

- ・過年度の一般選抜入学試験問題を立命館大学の入試情報サイトで公開しています。  
立命館大学入試情報サイト <https://ritsnet.ritsumei.jp>

### 英語 全方式共通

【出題内容・形式・配点】

内容	形式	配点	試験時間
I 長文総合問題	マーク	29	80分
II 長文総合問題	マーク	31	
III 会話文	マーク	24	
IV 文法・慣用句	マーク	16	
V 語句選択英文完成	マーク	20	
合計		120	

\*合計点が各学部(専攻等)および各入試方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

【出題の基本方針】

立命館大学の諸学部において教育を受けるにふさわしい、基本的な英語力を備えた受験者を選抜するために、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正に測定できる内容で出題することを基本方針とした。

#### 【各設問の方針と内容】(全日程共通)

**I** 750～850語程度の英文をもとにした、大意把握と内容理解の力を試す問題である。〔1〕は英文の意味・内容に関する問いが英語で提示され、〔2〕は与えられた5つの文が英文の内容と一致するか否か、あるいは英文の内容からだけでは判断できないかを問う、より正確な内容理解を試す問題である。〔3〕は英文を総合的に理解しているか(主旨の理解ができていないか)を問う。

**II** 750～850語程度の英文の内容理解を試す問題で、細部の正確な理解が要求される。〔1〕は文中の空所に当てはまる語(句)を選ぶ問題である。空所の直前・直後だけでなく、英文全体の話の流れを正確に把握する必要がある。〔2〕は英文の中の代名詞などの語(句)が、何を指しているか、何を意味しているかを、選ぶ問題である。何かを指示する語(句)が具体的に何を意味しているかを意識的に考えながら読むことによって正確な理解ができていないかを試す。

**III** 二人の対話文をもとにした問題である。対話の中の空所を埋めるのもっとも適当な表現を選択肢から選ぶ形式である。様々な場面で、話の流れを正確に掴みながら話し手の意向や気持ちなどを理解することができるか、また、適切な表現で応答し必要な情報を伝えることができるかを試す。人との関係を円滑にする(挨拶や呼び掛けなど)、相手の行動を促すなど、いろいろな言語の働きをする英語表現に親しんでおく必要がある。

**IV** 文法事項に関する問題である。空所を埋めることによって英文を完成させる問題である。基本的なものを中心に、動詞、副詞、形容詞、接続詞、前置詞など様々な品詞に関して、適切な英語で表現する力を試す。

**V** 語彙に関する問題である。〔1〕は英文の空所を埋めるのもっとも適当な単語を選ぶ形式で、文脈から語を導き出す問題であり、〔2〕は文中の下線部と同じ意味の語を選択する同義語の問題である。教科書に出てくるような基本的な語彙をはじめ、自立した英語使用者に必要な語彙を幅広く身につけておくことが期待される。単に単語の意味を知っているのではなく、その単語が英文の中でどのように使われるか、連語関係などにも注意を払いながら学習しているかが試される。さらに、その単語を他の単語で置き換えることができるかどうかを試されている。一つの単語に対する一段と深い理解が必要となる。

#### 【学習のポイント】

- ・文章全体の構成に注意を払いながら、論理の流れを理解しよう。文章の大意を取ることができたら、今度は一つ一つのパラグラフについて、キーワードなどを使って短い語句で示し、何を言っているのかを掴みながら、次のパラグラフに進んでいこう。そうすれば、細かい部分も正確に把握できるし、論理的な流れも正確に掴めるはずである。英文を効率よく、正確に読むためには、日頃から精読と多読をバランスよく行うことが大切である。文章を要約する練習も効果的だろう。
- ・会話文や慣用的な表現には、普段からインターネット上にある会話ビデオや映画などを活用して、楽しみながら親しもう。面白い表現などをノートに取って見直すのも役に立つだろう。1週間や1ヶ月毎に最初から見直し、実際に口に出して言うことも大切である。同じ状況に遭遇すれば、自然に言葉が出てくるだろう。
- ・語彙習得は言語習得の基礎中の基礎である。CDやDVDのついている単語集やインターネット上にある単語学習プログラムなどから気に入ったものを選び、耳で聞き、同時に口ずさみ、目で確認し、意味を考えながら書くなど、すべての感覚を使って覚えると効果的である。そうすれば、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばすことにもつながる。文脈の中で覚えることも大切である。文章や会話の中で単語がどのように使われているのかを意識しながら覚えていこう。

### 英語 国際関係に関する英文読解(IR方式)

【出題内容・形式・配点】

内容	形式	配点	試験時間
I SDGsと再生エネルギーに関する問題点	記述(日本語)	50	80分
II Islamophobiaの問題点と対処方法	記述(英語)	50	
合計		100	

【出題の基本方針】

国際関係、国際政治経済における今日的な主要問題、出来事に関し、英文で素早く、概要を的確に理解できる能力の測定を試みた。題材は、今日的な国際関係の主要問題を扱った。

#### 【学習のポイント】

- ・国際関係学においては、国際政治、経済、社会、文化などの事象、問題を扱うため、主要な政治経済問題などを報道、解説する新聞、雑誌などを、日頃からオンラインで、英語はもちろん、日本語でも幅広く読むことが必要である。
- ・速読により概要を素早く把握できるようにするとともに、書かれていることを鵜呑みにするのではなく、客観的なデータに基づいて批判的、実証的に分析することを心がけ、自己の意見を明確、的確に表現できる能力を持つことができるように日頃から努める必要がある。

国語	全学統一方式・学部個別配点方式		
〈出題内容・形式・配点〉			
内容	形式	配点	試験時間
一 現代文	マークと記述を併用	45	80分
二 現代文 ※1	マークと記述を併用	15	
三 古文	マークと記述を併用	40	
四 漢文 ※1	マークと記述を併用	15	
合計		100	

【出題の基本方針】

高等学校の学習を基礎とし、難解な文章を避けつつ、大学入学後の学びに必要なレベルの文章読解力の有無が判断できるような問題文を選び、出題する。現代文・古文・漢文とも、文章全体の的確な理解、その前提となる基礎的な語彙力や文法の理解を問うものを出題する。現代文では、高等学校までの学習による基本的な知識を前提として、語彙力や読解力を問うことを目的としている。

【学習のポイント】

- まず、文章全体の大意を把握し、そのうえで文章がどのように構成されていて、個々の文章や語句がどのように位置づけられているかを理解できるよう心がけること。
- 現代文では、特に評論文で使われる概念や比喩的な表現の理解が必要となる。普段から評論文を読み、頻出概念や比喩的な言い回しに慣れておくこと。ある程度の長さの評論文を短時間で理解する訓練をすること。
- 文学的な文章では、人物の心情の読み取りが必要になってくることがあるが、その根拠となる表現を文章中から見つけるよう心がけてほしい。
- 問題文では筆者独自の表現や考えが展開されることもある。先入見にとらわれず、文章中のキーワードを把握し、文章が示しているものを的確に理解することを心がけてほしい。
- 繰り返しや言い換えなどで強調されている部分は、作者が主張したい内容であることが多い。文章の主旨を理解する際、注目しておきたい。
- 接続詞の使い方や意味を的確に理解し、文脈の流れや文章の構造を捉えることができるようにすること。
- 語彙・句法・表現技法・四字熟語等については、普段から評論文に親しみ、自分にとっての初見の語句があれば、辞書を活用し、調べる習慣を身につけたい。
- 漢字は、文脈の流れの中で理解できるようにしておくこと。同音異義語にも注意しておくこと。また、漢字の書き取りは、書き順を理解したうえで、丁寧に正確に書く練習をしてほしい。
- 文学史については、単なる作者や作品名の暗記ではなく、文学史の流れの中に位置づけ、また描かれたテーマとともに記憶しておくこと。
- 古文は、基礎的な語彙や基本的な文法の知識をしっかりと身につけ、それをふまえて正確に読み取ることができるよう学習しておくこと。また、正確な現代語訳ができるよう訓練をしておくこと。
- 古文の文章の流れを理解するうえで、動作の主体が誰かを把握することは不可欠である。日頃から、敬語表現にも留意し動作主体を必ず捕いながら読むなどの丁寧な読解を心がけておくこと。
- 古文には和歌を含む作品もあるため、和歌の技法・形式についても理解しておくこと。文学史的な知識も学習すること。
- 漢文は、基本的な知識を問う問題である。高校の教科書で学習する句形や語の意味をきちんと理解して、文章読解の基本的な力をつけておくこと。

## 国語 共通テスト併用方式・後期分割方式

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
一 現代文	マーク	50	80分
二 現代文	マーク	50	
合計		100	

【学習のポイント】

- 論理的な文章を読解するためには、まずは、文脈の中で語句の意味を理解し覚えること、また、論理的に思考するためのツールとして概念語(抽象語)が使いこなせること、さらには文章の構造を大局的・俯瞰的に把握でき、筆者の思考や論理の道筋を正確にたどれることが必要である。
- 様々な話題に興味・関心を持ち、教養書や新聞の社説・文化欄なども意欲的に読み、幅広い読書を通して、精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙を養ってほしい。また、偏りのない判断や批判的思考が可能となるよう、ことばを自覚的に運用できる力を身につけることも心がけてほしい。

## 選択科目（公民） 政治・経済

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 日本国憲法の基本原理(基本的人権の保障)	記述	35	80分
II 福祉社会と日本経済の課題(公害と環境保全)	記述	35	
III 民主政治の基本原理(現代の民主政治・世界のおもな政治体制)	記述	30	
合計		100	

【学習のポイント】

- 基本的な出題範囲は、教科書、資料集、ならびに用語集である。教科書は複数の出版社から刊行されており、ある教科書にある記述が、別の教科書には無い場合もある。また、ある記述が1社の教科書のみの場合もある。したがって、資料集や用語集などで補充することが必要である。
- また、各教材中の「図表」「グラフ」「年表」などについても、細部まで目を配ることが必要である。
- さらに、教科書に記述のない新しい時事問題についても、日頃からニュース等を通じて、理解し、知見を深めることが望まれる。

## 国語 全学統一方式

〈問題選択について〉

方式	学部	解答する問題
全学統一・学部個別	文学部	一、二、三または一、三、四
	上記以外	一、二、三

※合計点が各学部(専攻等)および各入試方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

※1 文学部では、「二 現代文」と「四 漢文」は選択問題です。なお、文学部以外では漢文の独立問題は出題しません。

文章全体の流れの中で文章の読解が進み、主題の把握へとつながるように、問いの順番を考慮して出題している。古文・漢文も文章全体の主旨を正確に理解できるかどうか、受験生の読解力を問う問題を中心に出題している。その際、読解の前提である文法や語彙などの基礎知識の習得がなされていることを確認するための問いも出題している。

## 選択科目（地理歴史） 日本史

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月7日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 原始時代における信仰・儀礼	記述	30	80分
II 平安時代の対外関係	記述	30	
III 近世から戦後に至る教育史	記述	40	
合計		100	

【学習のポイント】

- まずは、教科書の本文を中心に、混乱することなく、各時代と分野の歴史の展開を把握し、時代観・年代観を養うことが肝要である。
- 漠然と、古代の、近代の、といった括りでなく、原始は先史・縄文各期・弥生各期・古墳時代各期の特性を体系的に把握し、古代～近世、19世紀前半までの時代は、世紀ごとの把握が、また1850年代の幕末・明治維新时期以降は、1860年代、70年代といった、10年ごとの展開の把握が重要となる。言うまでもなく、こうした学習を効率的に進めるには、年表の活用が必須である。市販のものを利用するのもよいが、自身でオリジナルな年表をノートに作成し、徐々に内容を充実させて、折に触れ目にするように心がければ、自ずから時代観・年代観が養成されることになる。また、年次を伴わない、各時代の代表的な文化財等については、該当する年表の箇所に、表にまとめておくのが効果的である。
- また、正確な年次と歴史用語の漢字表記が要求されることから、ケアレミスを防ぐという意味合いからも、書いて覚えるよう心がける必要がある。用語集を用いた学習が広く行われているが、闇雲に暗記を重ねるだけでは、少し「捻った」問題になるとたちまち解答に混乱を来すことが懸念される。やはり、個別の項目を習得する大前提として、時代観・年代観の養成、つまり年表の中に個別の項目を位置づけていくという作業が極めて重要な意味を持つ。そうすれば、明らかに時代・年代の異なる事項を解答するような初歩的な間違いはなくなる。
- 付け加えて、教科書と用語集、年表を用いた学習のみで満足することなく、必ず史料集や図表を活用した学習をしてほしい。いずれかの設問で史料・図表・写真等が利用されることになり、この部分の出来・不出来が全体の成績を左右する傾向にある。教科書に記載されている事項は、いかなる根拠すなわち史料に記されているのか、常に意識しながら学習することが望ましい。また、用語の字面だけでなく地域・場所などの空間的な把握も必要である。なお、昨今の傾向から、同時代の海外情勢との関連を意識することはもはや当然のことと言える。

## 選択科目（地理歴史） 世界史

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 前近代の東アジア世界	記述	20	80分
II 中国の文化大革命の影響	記述	20	
III セルジューク朝の歴史	記述	30	
IV アメリカの戦争	記述	30	
合計		100	

【学習のポイント】

- ある歴史上の出来事について、その出来事が発生した直接的な原因だけでなくその歴史的背景、さらにその出来事が次の歴史展開にどのような影響を与えたのかについてもよく理解しておく必要がある。歴史を流れとして理解するためには教科書を何度も読み返したうえで、教科書より少し詳しい参考書を読むのがよい。
- 世界史の学習に際して、ある時代・地域の歴史展開を地理的にイメージできるようにしておくことも重要である。教科書などを読みながら図版でその地理的展開を確認するとイメージを形成しやすい。
- 世界史学習そのもののポイントではないが、受験本番で問題を解く際には問題文をしっかりと読み込むこと。世界史の出題では、問題文全体の内容理解を前提として設問（空欄）を考えさせるという出題を心がけているので、空欄の前後だけでは正答にたどり着けないことも多い。文章読解力は大学入学後に最も必要となる学力の一つでもあるので、日頃から内容をしっかりと考えながら文章を読む練習をしておくことが必要である。

## 選択科目（地理歴史） 地理

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 読図(地形図)	記述	35	80分
II 地誌	記述	30	
III 系統地理	記述	35	
合計		100	

【出題の基本方針】

教科書・地図帳・副教材・統計資料に掲載されている諸事実を、地図ないし現実の地理に即して体系的に理解しようと努める受験生が力を発揮することのできる出題である。単に地理用語を記憶するのではなく、地表上の諸現象を知識として身につけたうえで、それらを相互に関係づけて理解しているかどうかを問うている。教科書を基本とすることは当然であるが、現代世界の状況にも関心を持ち、それらを地理的な事象と関連づけることのできる応用力を有しているかも積極的に問うた。

【学習のポイント】

- 教科書全体を熟読し、内容を適切に理解するとともに、地名・語句は正しく表記できるようにしよう。地域や地名については、地図帳を用いて位置を正しく把握すること。また、統計データやグラフ・表などの資料が掲載されている場合には、それらを読み取ることのできる理解力を養う必要がある。単なる用語の暗記にとどまらず、用語の説明や、地理的な現象の背景にある要因を説明できる思考力を身につけよう。
- 地図帳のみならず、地形図や「地理院地図」などのウェブ上の地図にも日常的に親しんでおくといよい。地形図ないし「地理院地図」を用いた身近な地域の観察を通じて、地図を読み解く力は高まるはずである。
- 多様なメディアで報じられる日々のニュースには、系統地理や地誌と関わる事項が多分に含まれている。新聞だけをとっても、世界の特定地域の地図が毎日のように掲載されているだろう。現代社会の状況にも関心を向け、地理的な理解力を育もう。

## 選択科目（数学） 全学統一方式（文系）、学部個別配点方式（文系型）

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月1日実施分のもです。

内容	形式	配点	試験時間
I 集合と命題、三角関数、図形と2次関数	記述	40	80分
II 数列	記述	30	
III 場合の数	記述	30	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>教科書の例題や応用問題（章末問題）を丁寧に解くことが重要である。</li> <li>解答数の多さに惑わされず、順序だてて解答してほしい。基礎的な問いから始まっていることから、途中であきらめないで解答してほしい。</li> <li>大問Ⅰは、基礎的な問題として、教科書の例題や章末問題を丁寧に取り組むことで十分解答できる問題である。</li> <li>大問Ⅱは長文問題としていることから読解力が求められるが、学習内容を社会の現象と関連づけて理解すれば難しい問題ではない。特に数学的に考える力（思考力）、判断力を評価している。（例えば、昨年度の問題については、数列では、銀行で預金する場合の利息を計算する学び、三角関数では建物の高さを実際に計算する学び、確率では工場での作業工程で不良品が出る確率を考える学び等が挙げられる。）</li> <li>大問Ⅲは、教科書の応用問題（章末問題）や問題集の中難度の問題に取り組むことによって十分解答できる。基礎的な内容から応用へと思考過程を順序だてて記述（論理的に表現）する学びをしてほしい。</li></ul>
---

## 数 学 理系型3教科方式、薬学方式

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分のもです。

内容	形式	配点	試験時間
I 三角関数、対数・指数、データの分析	記述	25	100分
II 微分、積分	記述	25	
III 空間図形	記述	25	
IV 確率、数列	記述	25	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>方程式、図形、三角関数、指数・対数、微分・積分、数列、確率、データの分析などに重点を置き、高校レベルの基礎学力を測ることを基本方針としている。</li> <li>教科書の例題から基本的な考え方を学び、一般的な問題集から定石解法を身につけることが大切である。そのうえで、融合分野の問題にも対応できるように相互の内容を結びつけて考える習慣を身につけることが望ましい。</li></ul>
---

## 数 学 全学統一方式（理系）、学部個別配点方式（理科1・2科目型）、共通テスト併用方式、後期分割方式

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分のもです。

内容	形式	配点	試験時間
I 整数、式と証明	記述	25	100分
II 平面ベクトル、極限	記述	25	
III 微分、積分	記述	25	
IV 数列、確率	記述	25	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>各単元の基本的概念を理解することが第一歩である。概念の定義や性質を憶えている必要があるが、ただの暗唱では意味がなく、必要な時に使える形で憶えていなければならない。そのために、各単元の練習問題が有効である。ただ機械的に正答を求めるのではなく、各概念の定義や性質を意識しながら解くことが重要となる。</li> <li>次は各単元の概念を使いこなすことが目標となる。各概念についての経験の幅の広さが重要である。一つの問題に対しても図を使って考えたり、具体的な値を代入して考えたりするなど、イメージや実感を持って問題を解くことによって、より多くの経験を積むことができる。また、すぐには解けないレベルの問題について、試行錯誤をしながら焦らずにじっくり考えてみることも有効である。複合問題と呼ばれるような複数の単元の概念に関連した問題を解けることは一つの基準になる。</li> <li>問題をよく読み、内容を理解することは前提である。数学の問題文は冗長性が無いか極めて低いという傾向にあり、拾い読みは通用しない。普段から問題の意味をきちんと理解する習慣を身につけてほしい。</li> <li>字は読めるように書こう。こだわり過ぎる必要はないが自分や伝えたい相手が読み間違えるようではもったいない。これも普段から習慣化しておこう。</li></ul>
--

## 理 科 物理

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 力学	マークと記述を併用	33	80分
II 電磁気	マークと記述を併用	34	
III 熱	マークと記述を併用	33	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>物理に限らず何事もそうであるが、まず基礎知識をしっかり身につけることが大切である。それに加え、物理の学習においては、物理現象が起きるしくみをよく考えて、本質を理解することが非常に重要である。公式を機械的に暗記するだけではなく、それによって表されている物理法則の意味をよく理解することに努めてほしい。そのうえで物理法則や公式を具体的に応用できるように、基本問題から応用問題まで数多く演習を積み重ねてほしい。</li> <li>文章を正しく読み解く力が不足している受験生が多いと感じられる。一見難解そうに見えても、問題文の誘導に従って順序立てて考えるだけで正答できる問題も数多く出題されているので、普段の問題演習でも問題文のポイントを意識し、文章を正しく読み解くトレーニングに努めてほしい。毎年、問題文中の解答の指定（使用してよい文字定数など）に従っていない「もったいない」解答が散見されるので、その点からも問題文を注意深く読むことが重要である。</li> <li>問題を解く過程では往々にして計算間違いをしてしまうものであるから、「問われている物理量と計算結果の「次元」が同じであるかをチェックする」「計算過程を再度確認して計算ミスを発見する」といったことができる力を身につけることも重要である。</li> <li>数式は「見ただけで意味がよくわかる」ように、約分などをきちんと行って、式をよく整理する習慣をつけてほしい。</li></ul>
--

**【出題の基本方針】**  
高等学校で学ぶ数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ、数学B（ベクトルと数列）の範囲における基礎的な内容の習得や知識・理解の程度を判定し、本学の文系学部で学ぶために必要な論理的思考力や直観力、表現力等を評価することを目的としている。問題は、受験生が学ぶ教科書の例題および応用問題（章末問題）を参考にしてている。特に大問Ⅱでは読解力や数学的に考える力、大問Ⅲでは、思考過程を論理的に表現する力を問う問題としている。

<div><b>【出題の基本方針】</b></div> <p>方程式、図形、三角関数、指数・対数、微分・積分、数列、確率、データの分析などに重点を置き、高校レベルの基礎学力が身についているかを測ることを念頭に置いて作問を行った。典型的な問題を着実に計算し答えを誘導する力を試す問題構成を心がけた。</p>
--

**【出題の基本方針】**  
方程式、図形、三角関数、指数・対数、微分・積分、数列、確率、データの分析などに重点を置き、高校レベルの基礎学力が身についているかを測ることを念頭に置いて作問を行った。典型的な問題を着実に計算し答えを誘導する力を試す問題構成を心がけた。

## 理 科 化学

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 構造、結合、気体反応	マークと記述を併用	25	80分
II 無機化合物、電池	マークと記述を併用	25	
III 有機化合物	マークと記述を併用	25	
IV 高分子化合物	マークと記述を併用	25	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>高校で使用した「化学基礎」・「化学」の教科書の内容について、化学的な思考力を用いて理解するとともに、教科書の例題、問、章末問題などに取り組み、学習した内容を活用できる力を身につけること。</li> <li>教科書を中心に、化学の全分野を学習し、確実かつ正確に、基礎的な知識を身につけること。その際、単なる教科書の丸暗記ではなく、その事項を原理から理解し、応用力を身につけるようにすること。</li> <li>化学で扱う事項には、分野に関わらず相互に関係があるので、幅広く知識を習得したうえで、様々な視点で反応や性質を見るように心がけること。</li> <li>物質名や化学式については、教科書に記載されている正確な表記法を身につけること。また、日頃から丁寧な記述を心がけること。</li> <li>計算問題については、教科書にある基本的な問題の考え方を正しく理解することと、教科書に必ず記載されている有効数字に気をつけて正しく計算すること。</li></ul>
--

## 理 科 生物

〈出題内容・形式・配点〉※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 核、細胞分裂、遺伝子発現	マークと記述を併用	25	80分
II 神経系、神経細胞	マークと記述を併用	23	
III 光合成	マークと記述を併用	25	
IV 生命表、生存曲線、種間関係	マークと記述を併用	27	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>「生物基礎」・「生物」で学ぶ範囲は広く、内容は多岐にわたっているため、全体をむらなく学習することが重要である。生物に関する現象は、それぞれ意味を有しているため、なぜそのような現象が起きるのか、原理を理解することがより深い学習につながる。</li> <li>まずは教科書を中心とした学習に取り組んでもらいたい。応用的、発展的な問題も出題しているが、教科書にもとづく授業内容を着実に学習していれば、十分に解答できるものとなっている。</li> <li>生物では一つ一つの現象や反応が独立して起こるのではなく、それらが相互に関連して大きく「生命」として体系化されていることが多い。断片的な基礎知識を習得するだけでなく、それらがどのように体系化されているのかを考える習慣をつけてもらいたい。</li> <li>実験データを図表から読み取り適切に解釈する力や、自分の考えを論理的に文章にまとめる力をぜひ養ってもらいたい。</li> <li>文章の作成にあたっては、少なくとも自分で読み返し、意図をしっかりと伝えられているかを検証する習慣を身につけてもらいたい。</li></ul>
---

## 経営学部で学ぶ感性

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 論述	記述	40	120分
II 論述	記述	30	
III 論述	記述	30	
合計		100	

<div><b>【学習のポイント】</b></div> <ul style="list-style-type: none"><li>「知的好奇心、観察力、洞察力、発見力」の深度を深めること、与えられた題材（文章や図）の背景や意図を読み解く能力を養うこと。経営学部の入試だからと言って必ずしも「経営や経済」に関する事柄に限るのではなく、日頃の読書を通じて、文学、芸術、地理、歴史、自然科学にわたる幅広い領域について、知的好奇心を持って学習することを心がけたい。</li> <li>高校の学修内容をベースに社会の出来事に関心を持ち、疑問に感じたことを自らの感性をふまえてじっくりと深く「調べる」もしくは「考える」習慣を持ち、そうした知的好奇心を通じて蓄積された知識を論理的に述べる練習が必要である。</li> <li>自らの見解を論理的に限られた字数で述べる力である「文章表現力」を培う。自らの考えや解釈を論理的に整理してまとめていく力も必要であるが、高等学校修了までに学ぶ語彙や漢字、および文章の書き方といった基本的な学習も押さえておく必要がある。</li></ul>
---

**【出題の基本方針】**  
「化学基礎」ならびに「化学」の教科書の内容を十分に学習しておけば解答できる基礎学力を測ることを基本方針とした。教科書に記述されている内容について、基礎的な知識を問うとともに、化学的な思考力や応用力の習熟度を試す問題を出題した。また、実験や生活を題材とした問題も積極的に取り入れ、受験生が化学を身近に感じ、かつ、問題文の誘導に従えば化学の基礎知識を利用して解答できるように工夫した。

<div><b>【出題の基本方針】</b></div> <p>「生物」および「生物基礎」で学ぶ総合的な知識を問うとともに、習得した知識を活かして論理的に思考する力についても問う内容とした。教科書に書かれている基礎的な知識を十分に習得し、それを活かした論理的な思考力と科学的な表現力を有する受験生を選抜することを目指した。また、図表からデータを読み取る力や実験に関する文章を読んで解答を導き出す力を試した。</p>
--

<div><b>【出題の基本方針】</b></div> <p>「生物」および「生物基礎」で学ぶ総合的な知識を問うとともに、習得した知識を活かして論理的に思考する力についても問う内容とした。教科書に書かれている基礎的な知識を十分に習得し、それを活かした論理的な思考力と科学的な表現力を有する受験生を選抜することを目指した。また、図表からデータを読み取る力や実験に関する文章を読んで解答を導き出す力を試した。</p>
--

<div><b>【出題の基本方針】</b></div> <p>本入試は経営学部で学ぶうえで期待される「知的好奇心、観察力、洞察力、発見力」を総合的に評価するため、与えられた題材を十分に観察・検討して、自らの主体的な見解をまとめることを中心に、それらを他者に伝える「文章表現力」についても併せて評価することを出題の基本方針とした。</p>
--